

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 23 日現在

機関番号：34418

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520446

研究課題名(和文) 中国トン族歌謡の実態と伝承についての研究 - 「歌師」の役割を中心に -

研究課題名(英文) Research Concerning the Current State and Cultural Heritage of Ethnic Chinese Dong Folk Songs: A Study of the Role of the "Ballad Master"

研究代表者

牛 承彪 (NIU, CHENGBIAO)

関西外国語大学・国際言語学部・准教授

研究者番号：20460842

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円、(間接経費) 1,140,000円

研究成果の概要(和文)：中国トン族の歌謡文化伝承に大きな役割を果たしている「歌師」を研究対象に、「歌師」の歌と関わる人生、「歌師」が伝承している歌謡、「歌師」が活躍している伝承活動、その活動背景にある生活・生産・信仰・社会の状況について考察・調査を行った。その過程で、多くの音声・写真・ビデオ・文字資料を蒐集した。この研究を通して、トン族歌謡文化の全体像を明らかにすることができた。研究成果の一部は『報告書』にまとめた。

研究成果の概要(英文)：In the traditional transmission of ethnic Chinese Dong folk songs, the role of the "Ballad Master" is one of great importance. In this study, the "Ballad Master" is the primary subject of research. In addition, this study performs an investigation and survey of the educational life of the "Ballad Master", his inherited folk songs and participation in social activities; the background lifestyle, production, beliefs, and societal situation of the Dong people are also investigated. During the process of this study, a large amount of recordings, photographs, videos, and transcriptions have been collected. By means of this research, the current overall state of ethnic Dong folk song cultural heritage is made clear. A portion of the research results have been organized into the publication Report Proceedings.

研究分野：中国文学

科研費の分科・細目：比較文学

キーワード：少数民族 トン族 歌謡 歌師 大歌 歌垣

1. 研究開始当初の背景

(1) 中国トン族は稲作を営み、氏族で村を作って暮らしている。それゆえ、歌謡が非常に発達している。トン族の歌謡文化の伝承に大きな役割を果たしているのは「歌師」である。しかしこれまで「歌師」の研究はほとんどなされておらず、わずかに個人の履歴や、どのように歌謡を覚えたかの紹介にとどまっている。

(2) 「歌師」のほとんどは高齢になっている。日常生活の中で村の子供たちに歌を伝承する義務を担っており、伝統的な行事の中では指導的な役割を果たしている。しかし彼らが覚えている歌について、系統的な採集・録音作業は政府文化部門にしる、研究機関にしる、基本的には行われていない。トン族の文字は1985年に創出したもので、現在でも普及されておらず、漢字さえ習っていない方が多い。漢字で記録された歌本は古籍として出版されたものはいくつあるが、全体のごく一部分に過ぎず、現在生きている「歌師」のものはほとんど入っていない。彼らが亡くなれば、彼らが覚えている歌も消失してしまうのである。

2. 研究の目的

(1) 「歌師」を研究対象にする。「歌師」の幼少期から現在に至るまで、歌謡とのかかわり方を考察することで、個人と歌謡文化との関係を明らかにする。また、「歌師」が実際に歌謡を伝承する現場について、参与観察を行い、伝承の実態を考察する。

(2) 「歌師」が伝承している歌謡を採集する。それと同時に、歌謡文化をトン族村の生活・生産・信仰・社会を含めた農耕文化のなかで考察する。それが日本の歌謡研究にも理論と方法論で貢献できることをめざす。

3. 研究の方法

(1) 「歌師」を相手にインタビュー調査を行う。「歌師」の成長過程と文化や知識を獲得した経緯、歌謡を覚えた経緯、歌謡を指導する立場になった経緯、同じ村や外の村の「歌師」との交流状況を聞き取る。

(2) 「歌師」が伝承する歌謡をめぐって、録音・録画し、個々の歌について覚えたきっかけ・実際に歌われた場・その場の状況などについて聞き取る。聞き取った歌の歌詞については、文字整理・翻訳を行う。

(3) 「歌師」が歌を伝承している現場を参与観察する。これはとても重要で、この現場

から歌師及び歌謡が村の生活の中でどのように伝承し、どのような役割を果たしているかが見える。

(4) 歌謡文化の背景をめぐって、「歌師」が暮らしている村の環境や、生産・生活状況、信仰状況、年中行事、婚姻関係が結ばれた村の氏族の基本状況・交流状況・婚姻関係状況などを聞き取る。

(5) 調査の過程を録音・撮影・録画し、第一次資料として保存する。

4. 研究成果

上述した研究方法に基づき、着実に調査研究を進めてきたので、研究目的は十分に達成し、予想以上の成果を収めた。詳しくは次のとおりである。

(1) 異なる地域における四つの村を選定し、村の「歌師」・長老を調査対象者にしてインタビュー調査を実施した。調査対象者は以下のとおりである。

貴州省黎平県において：

岩洞村(「大歌保存基地」に指定)の「歌師」6名、長老7名

堂安村の伝承者3名(この村には「歌師」がいない)、長老等4名

宰拱村「歌師」1名、長老1名

黄崗村「歌師」2名、長老等4名

銀朝村「歌師」2名

貴州省従江県において：

小黄村「歌師」2名、村民2名

広西チワン族自治区三江県において：

冠洞村「歌師」1名

聞き取りの録音は文字に整理し、一部は『調査研究報告書』に収録した。

(2) 「歌師」が活躍する現場(歌と関係する行事)の参与観察を行った。参与観察を実行したのは以下のとおりである。

「鼓楼大歌」(岩洞村・銀朝村・小黄村)

「祭薩(さい歌堂)」(岩洞村・堂安村・銀朝村)

銀朝村)

③「攔路歌」(黄崗村)

「喊天節」(黄崗村)

「歌師」が伝承の現場で果たす役割を直接観察することができるだけでなく、「歌師」が深くかかわっている行事についても観察することができた。いずれも歌謡を文化として位置付けるべきであることを物語る具体的な事例である。

これ以外、調査期間中に行われたその他の行事についても参与観察することができた。「歌師」が暮らしている環境の文化的背景の一部分を成すものであり、歌謡が生きている場でもある。実際考察した行事は、以下のものがある。

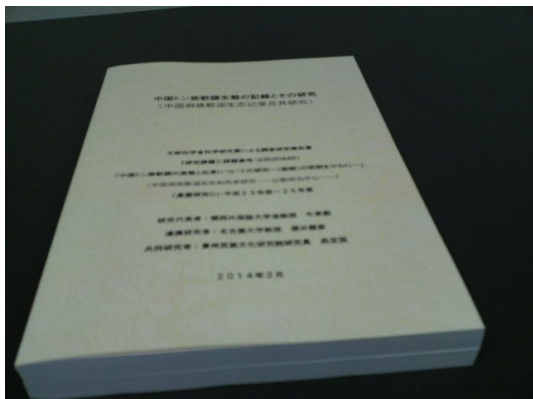
岩洞村におけるお祓い行事「小白口」
岩洞村におけるお葬式
岑遷村における神がかり「算命」儀式
黄崗村における「抬官人」行事
観察過程は、撮影・録画し、また文字整理を行った。一部分は『調査研究報告書』に収録した。

(3)「歌師」が覚えている歌を録音し、トン語・中国語訳に文字整理した。中でも、岩洞村においては、「叙事歌」を除いたほぼすべての歌を採集した。具体的には、「大歌」「琵琶歌」「讚鼓楼」「祭薩歌」「上山歌」「河歌」「流水情歌」「攔路歌」「乞丐歌」などの種類がある。音声を録音し、文字整理(トン語・中国語訳)を行った。その中の「大歌」の部分は、『調査研究報告書』に収録した。

(4)「歌師」が伝承する歌を村の生産・生活の中で考察した。村の長老や宗教的行事に携わる「鬼師」を対象に聞き取りを行い、村の生活の中で「歌師」や歌謡の位置・役割を明らかにした。特に歌行事と信仰(宗教)との関係、歌詞に反映された世界観や信仰などの意識・観念、などを村の生活と結びつけて考察することで、信仰的背景をより深く掘り出すことができた。さらには、それぞれの種類の歌がどのような原理で成立し、機能しているかが見えてきた。

調査地の岩洞村の場合は、村の文化誌が形成できるほど、内容が豊富なものになっている。成果は文字整理し、一部分は『調査研究報告書』に収録した。

(5)毎回の調査において、調査日誌・聞き取り記録・参与観察記録・歌師が伝承する歌謡、などの文字整理作業(トン語・中国語訳)を速やかに行ったので、豊富な資料集ができた。一部分は『調査研究報告書』にまとめた(592頁)。



(写真:『調査研究報告書』 「図書」参照)

(6)豊富な音声・写真・映像資料を集めることができ、今後はこれらの成果を活用して研究を進め、積極的社會に公開・還元するつ

もりである。次項の「発表論文」には入れていないが、研究成果に基づいて書いた未発表の論文(すでに投稿している)は、ほかに3編ある。

牛承彪「中国トン族の村における空間の意識をめぐって」(関西外国語大学『研究論集』100号)2014年

牛承彪「中国トン族歌謡の実態と伝承研究 鼓楼大歌 を例として」(中国語)(四川大学『文化遺産研究』)2014年(掲載予定)

牛承彪「トン族 鼓楼大歌 の一つの生態記録 2013年2月16日貴州省黔南州黎平県口江郷銀朝村」(貴州省文化庁『貴州省非物質文化遺産』)2014年

(7)調査地の政府関係者と良好な協力関係を築くことができた。政府の文化関係者から協力を得ると同時に、トン族の居住地である貴州省・広西チワン族自治区・湖南省における歌師や歌謡の全体的状況を把握することができた。また、歌師の伝承活動の内容と特徴は、歌謡の性格と深く関わっていること、歌師についての評価基準も地域によって異なることがわかった。今後の調査研究に役に立つ情報である。人的なネットワークも今後の調査研究の土台になる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

— 牛承彪「中国トン族[鼓楼]の文化的機能について 堂安寨と岩洞寨の事例から」『研究論集』97号、関西外国語大学、査読有、2013年、69~89

— 櫻井龍彦「歌掛け、紛争解決、慣習法 - 中国西南少数民族の事例から」『名古屋大学中国語学文学論集』第23輯、査読なし、2011年、131~146

— 櫻井龍彦「人口稀疏散村の民俗文化伝承危機及其対策」『民俗研究』2012年第5期(総第105期) 山東大学、査読なし、(中国語)2012年、121-129

〔学会発表〕(計 3 件)

牛承彪「トン族村における 祭薩 行事 (2012年)」、歌謡研究会、奈良教育大学、2012年

牛承彪「トン族 大歌 の歌詞をめぐって」、歌謡研究会、同志社大学、2013年

牛承彪「中国トン族の歌について～ 歌謡文化 の視点から～」、関西文化学術研究都市7大学連携「市民公開講座」、国立国会図書館関西館、2014年(予定)

〔図書〕(計 1 件)

牛承彪『中国トン族歌謡生態の記録とその研究』、文部科学省科学研究費による調査研究報告書』、2014年3月、全592頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

牛承彪 (NIU, chengbiao)

関西外国語大学・国際言語学部・准教授

研究者番号：20460842

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

櫻井龍彦 (SAKURAI, tatsuhiko)

名古屋大学・国際開発研究科・教授

研究者番号：60170643